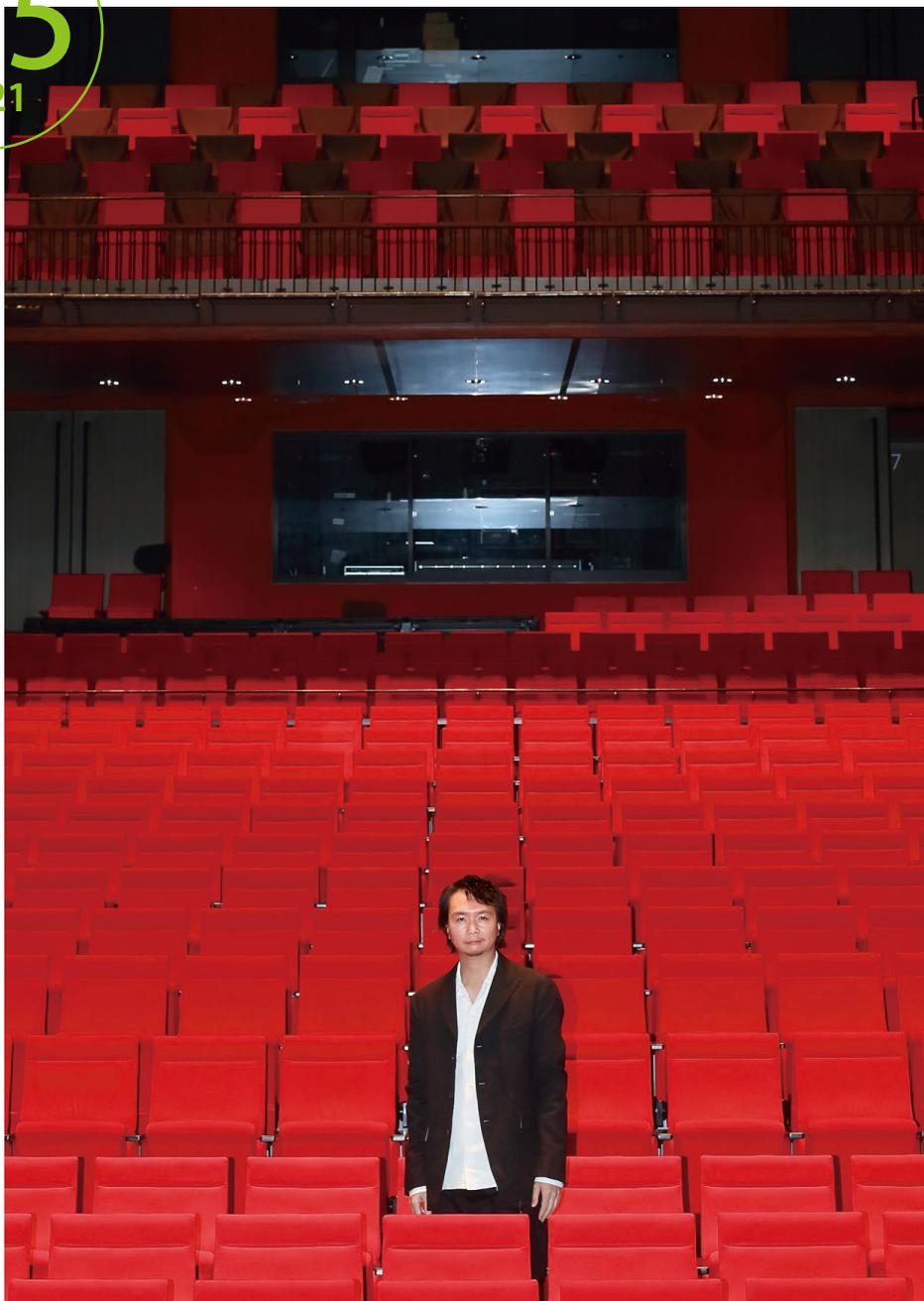


kanagawa ARTS PRESS

神奈川芸術プレス Vol.158

4 | 5
2021



撮影:黒瀬康之

長塚圭史

CREATOR'S VOICE 177

新ロイヤル大衆舎×K A A T「王将」―三部作―

2021-2022年 ラインナップ発表

神奈川県民ホール オープンシアター 2021

神奈川芸術プレス・各施設ホームページリニューアルのお知らせ

隔月刊:奇数月15日発行

1年で1本の物語が見えてくるような劇場に。季節に呼応する劇場は、街とも呼応するはずですから。

新ロイヤル大衆舎×KAAT
「王将」- 三部作 -

KAAT神奈川芸術劇場

長塚圭史

演出家・劇作家・俳優



2021年4月、長塚圭史がKAAT神奈川芸術劇場芸術監督に就任する。長塚とKAATの歴史は長く、開館の年からほぼ毎年、長塚はKAATで公演を行ってきた。そんな長塚が、2021年度からは劇場にシーズン制を持ち込み、季節に、街に、呼応した劇場作りを目指す。ここでは、プレシーズンに上演される長塚演出「王将」をはじめ、長塚が初年度のラインアップに込めた思いを聞く。

——2019年3月に行われた芸術参就任会見を機に、長塚さんはKAAT芸術監督に向けての第一歩を踏み出しました。それ以前に、芸術監督という役職についてはどんなイメージをお持ちでしたか？

関心はありました。イギリスに留学した時に、イギリスの劇場にはそれぞれ芸術監督がいて、芸術監督がある意向を持って、予算を組み立てたり、アソシエイトディレクターを置いたりしながら劇

場を運営しているという光景を見ていたから。なので参与になってからの2年間は「自分には何ができるだろう」と考えていましたね。

——長塚さんはKAATオープン直後の2011年1月、まだKAATに何も色がついていない時に、大スタジオで葛河思潮社「浮標」を上演されました。それから10年の間に宮本亜門さん、白井晃さんと二人の芸術監督を迎え、KAATにどのような色がついてきたと思われますか？

「浮標」をやらせていただいた時は、とにかく時間と場所をたづねると与えてくれる、開かれた劇場だなと思いました。ここ数年はさらに活気が出て、2019・2020年のプログラムに至っては「あれだけマックスにプログラムを組まれると、後を継ぐのが大変だな」というくらい(笑)。でもそのおかげでKAATは発信する劇場、創造型の劇場であるということが全国の演劇ファンと演劇関係者に知らしめられ、すばらしい功績だったと

長塚圭史

Nagatsuka Keishi

演出家・劇作家・俳優。1975年5月9日生まれ。1996年早稲田大学在学中に演劇プロデュースユニット「阿佐ヶ谷スパイダース」を結成し、作・演出・出演の三役を担う。2011年、ソロプロジェクト「葛河思潮社」を始動、2017年には、福田転球、大堀こういち、山内圭哉らと新ユニット「新ロイヤル大衆舎」を結成。2008年9月から1年間文化庁・新進芸術家海外留学制度にてイギリスに留学。2019年4月より神奈川芸術劇場・芸術参与。2021年4月に芸術監督に就任。





思います。そんなK A A Tのイメージを踏襲しつつ、僕自身はコロナの問題や働き方改革などについて考えることも芸術監督のミッションの一つだと思うので、新たな劇場のあり方を模索していきたいと思っています。また以前から劇場を支えてくださっているお客さまの胸を借りつつ、まだ出会えていないお客さまとやかに出会うかを考えながら、この劇場をさらに開いていきたいなと。

——2021年度は、コロナによって延期になった2020年度のプログラムを一部盛り込みつつ、季節やストーリーを感じるラインアップとなりました。4月から7月まではプレシーズン、8月以降はテーマを掲げたメインシーズンとなりますが、シーズン制を取り入れたのはなぜですか？

1年にメリハリをつけるというか、年間通して観たときに1本の物語が見えるようにしたかったんです。プレシーズンは雑多でわちゃわちゃと何かが起きているような、劇場からはみ出すような場所にした。でもメインシーズンは、あるテーマに沿って、多彩な劇が見られるような時間にした。今年のメインシーズンは「冒」がテーマなんですけど、「飛び出す、はみ出す、突き進む」作品をやるうと思っっています。戯曲に重心をかけ、そ

の作品に望ましい演出家をお願いをしています。またシーズンを設けることでラインアップされた演目と外の風景が呼応し始めるだろうし、季節に呼応する劇場は街とも呼応するはずなので、リズムができてくるんじゃないかなと。

——プレシーズンには、長塚さんもメンバーの一人である、新口イタル大衆舎の「王将」がラインアップされています。「王将」は、2017年に下北沢の小劇場楽園で上演され好評を博しましたが、今回はアトリウムでの上演です。

「王将」の体験というのは非常に大きいです。楽園はとても小さな劇場で楽屋も狭いから、俳優たちは下北沢の街にはみ出しながら出番を待ち、出番になると舞台に躍り込んでいく、飛び出していく、というような状況だったんですね。その光景がとても面白かったし、このまま終わるのはもったいないなと思ったんです。と同時に、「あのアトリウムという空間にはみ出したい、あそこで何かやってみたい」という思いが全く別のところでもありました。それらが結びつき、さらに「神奈川県民の皆さんに『王将』の喜びを知っていただけたら」と思い、この作品に決めました。

——またタニノクロウさん作・演出の「虹



新ロイヤル大衆舎×KAAT 「王将」-三部作-

2021年5月15日(土)～6月6日(日) KAAT神奈川芸術劇場〈アトリウム特設劇場〉

作:北條秀司 構成台本+演出:長塚圭史 音楽:山内圭哉

出演:福田転球 大堀こういち 長塚圭史 山内圭哉 (以上新ロイヤル大衆舎)

常盤貴子 江口のりこ 森田涼花 弘中麻紀

櫻井章喜 高木 稟 福本雄樹 荒谷清水 塚本幸男

武谷公雄 森田真和 田中佑弥 忠津勇樹 原田 志

*料金、スケジュール等詳細は決まり次第HP上にてお知らせいたします。

*その他、KAAT神奈川芸術劇場のラインアップ情報についてはP11をご覧ください。

www.artspress.jp



このマークの記事にはWEB版だけの+αコンテンツも!

む街」は、市民劇になるそうですね。

「コロナのおかげで、当初予定していた形とはかなり変わってきていますが、タニノさんと何度も話し合いを重ねて、現段階では、プロの俳優さんと県にゆかりのある、でも演劇にはまったく関わりのない人たちを巻き込んだ形で上演できたらなど。横浜の街の一部がヌルツと劇場に引き出されるような、タニノさんのグロテスクでありながらどこか温かい視界がどう立体化するのか、すごく楽しみです。

——そして今年のキッズプログラムは、硬派なイメージがあるダンサー・振付家の北村明子さんが手掛けられるということ、とても楽しみです。

実は北村さん、ご自身がオフアールされているとなかなかわかってくださらなくて。でも、「いや違うんです、北村さんにキッズプログラムの作品を作ってほしいんです」と改めて説明したら、驚きつつも喜んでくださいました(笑)。「夏休み」をテーマにした「ククノチテクテクマナツノボウケン」。今回は、キッズプログラムとKAATEXHISSIONの要素を融合する企画で、北村さんと現代美術作家の大小島真木さんがどんな化学反応を見せてくれるのか楽しみです。

——メインシーズンには野木萌葱さん作・シライケイタさん演出「湊横濱荒狗挽歌」や白井晃さん演出「アルトゥロ・ウイの興隆」再演、小山ゆうなさん演出の「ラビット・ホール」など注目作が並びます。その中から今回は、長塚さん演出の「近松心中物語」について伺いたいです。2019年に演出された「常陸坊海尊」に続く、秋元松代作品となりますね。

秋元松代さんは神奈川県が誇る劇作家ですが、「常陸坊海尊」を演出して、極めてシンプルな言葉の中に多くの情報が入っている台詞に胸を打たれ、その戯曲の素晴らしさにまた向き合いたいと思います。「近松心中物語」といえば、蜷川幸雄さんが大衆劇として華々しく発表され、何度も上演された作品ですが、純粹に戯曲として読むと、お金に左右されて惚れた相手と添い遂げられない男女と、物語に恋して心中しようとする裕福な男女の対比に現代性があるなと感じて。その格差と、「目で恋に落ちたその激しさを、鮮やかに見せたいなと思っています。」非常に楽しみです。昨年はKAATも他の劇場同様、「コロナによってさまざまな打撃を受けました。ただ、予定されていた公演の多くは中止ではなく延期になり、公演を楽しみにしている観客やアー

ティストたちとの信頼関係を、KAATはより強固なものにしたと感じます。そのような観客、アーティストたちとの関係性を、長塚さんはこの1年でどう深めたいかと思われませんか？

上演という形でお客さまと出会うことは、ものすごく大事なことですよね。と同時に、創っていることにも非常に大きな価値があると僕は思っています。つまり、「創っていること自体に価値がある」とアーティストが自信を持てるようなあり方を、公共劇場は模索していく必要があるんじゃないかと。だからもし何らかの理由で本番ができなかったとしても、KAATは観客やアーティストに何を保証できるのか、何が提供できるのかを考え、実行していかなければいけないのではないかなと思います。それによって、観客やアーティストたちも「こんな状態ではあるけれど、KAATに行ってみよう」「やっぱりKAATでやってみよう」と思ってくれるかもしれませんし、そのことによって信頼関係が深まるのではないかと考えます。「KAATは私たちのことをわかってくれる」、そう思ってもらえるような劇場になっていけたらと思います。

取材・文：凜

撮影：黒瀬康之



Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021
中村祥子 (9/18公演出演)



Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021
東京バレエ団「白鳥の湖」
©Kiyonori Hasegawa



みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」
©Iwata Eri



C×C Composer's Journey
川上統



C×C Composer's Journey
山本裕之



「ファンタスティック・ガラコンサート2020」より
©Kiyonori Hasegawa

神奈川県民ホール 2021-2022年ラインナップ

神奈川県民ホール

新しい芸術の様式へ すべての人々に多彩な感動を

豪華キャストが贈る、華麗なるステージ

神奈川県民ホールの大ホールでは、今年も多彩なプログラムをお届けします。

恒例の「ファンタスティック・ガラコンサート」では、オペラやバレエの名場面、オーケストラの名曲に加え、ジャンルを超えたコラボレーションをお贈りします。1年の締めくくりに、楽しく華やかなステージをお楽しみください。また、バレエ公演では、3年に1度のダンスの祭典「Dance Dance Dance

@ YOKOHAMA 2021」や、松山

バレエ団「くるみ割り人形」など、クラシックからコンテンポラリーまで、バレエ芸術の魅力が詰まった豪華なステージをお届けします。夏休みには、海老名と横須賀に出張し、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を開催。ピアノ演奏、日本語上演による約1時間休憩なしのスペシャル版で、初めてのオペラ鑑賞にもぴったりです。ご家族揃ってお楽しみください。

作曲家にスポットをあてた

室内楽の新シリーズが始動

「C×C」と題した新しい室内楽シリーズが始まります。このシリーズは同時代を生きる気鋭の作曲家が、記念年を迎える過去の偉大な作曲家と向き合い、未来へとつながる新しい芸術表現を、第一線

で活躍する音楽家の演奏で発信するものです。

11月は神奈川県逗子市育ちで武満作曲賞、芥川作曲賞をW受賞した山本裕之が没後25年を迎える武満徹をテーマに新曲「横浜舞曲」を、1月は同じく逗子市出身、国内外で目覚ましい活躍を見せる川上統が、没後100年を迎えるサン＝サーンスをテーマに新たな「動物の謝肉祭」をそれぞれ披露します。

未来の名作が誕生する瞬間にぜひお立ち会いください！

ドイツ・クライス社のオルガンで聴く
オルガン・コンサート・シリーズ

神奈川県民ホールのパイプオルガンは日本の公共ホールに初めて設置されたオルガンで、ドイツ・クライス社製の楽器です。小ホールの舞台上にあるため客席からオルガニストの演奏を間近で楽しむことができます。開館当初から続く「オルガン・プロムナード・コンサート」は、初めての方でも気軽にお楽しみいただける入門編。10月の「オルガンリサイタル」には、今年度より新しく県民ホールのオルガン・アドバイザーを務める中田恵子が登場します。フランス留学、国際コンクールでの優勝など目覚ましい活躍を続ける彼女の演奏にご期待ください。また、



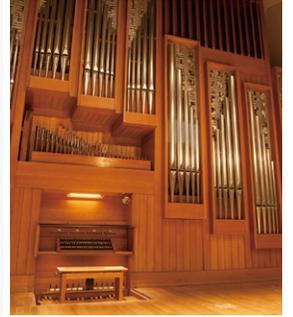
「ことばのかたち かたちのことば」©志鎌康平
華雪



「ことばのかたち かたちのことば」©繁田 論
ミヤケマイ



中田恵子(オルガン・アドバイザー)



小ホールのオルガン

©Hiroshi Togo

神奈川県民ホール 2021-2022年 主なラインナップ

オペラ・バレエ・オーケストラ (大ホール)

●「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2021」

・東京バレエ団「白鳥の湖」(フルメイステル版)
2021年9月4日(土) 時間未定

・「International Choreography ×
Japanese Dancers ~舞踊の情熱~」
2021年9月18日(土) 15:00

●ファンタスティック・ガラコンサート2021

2021年12月29日(水) 15:00

室内楽 (小ホール)

●C×C Composer's Journey

(作曲家が作曲家を訪ねる旅)

①山本裕之×武満 徹

2021年11月6日(土) 15:00

②川上 統×サン=サーンス

2022年1月8日(土) 15:00

オルガン (小ホール)

●オルガン・プロムナード・コンサート

2021年4月23日(金)、6月25日(金)、8月27日(金)、11月26日(金)、
2022年1月28日(金)、2月18日(金) 各回12:20

●オルガンリサイタル

2021年10月9日(土) 15:00

●オルガン・クリスマスコンサート

2021年12月11日(土) 15:00

*出演者、演目、時間等は現在の予定です。都合により変更になる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

美術 (ギャラリー)

●第56回神奈川県美術展

作品搬入:工芸・書・写真 2021年6月26日(土)・27日(日)

平面立体 2021年7月3日(土)・4日(日)

1期展[平面立体]:2021年8月25日(水)~9月5日(日)

2期展[工芸・書・写真]:2021年9月8日(水)~19日(日)

●ミヤケマイ&華雪「ことばのかたち かたちのことば」

2021年12月20日(月)~2022年1月29日(土)

●神奈川県民ホール巡回事業 出張公演 in 海老名&横須賀

みんなでのたのむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」

2021年7月17日(土) 14:00 海老名市文化会館 大ホール

2021年7月24日(土) 14:00 ヨコスカ・ベイサイド・ポケット

*オープンシアターについては、P10の特集をご覧ください。

*ラインナップ及び各公演の詳細はHPをご覧ください。



12月には、恒例の人気企画「クリスマスコンサート」も開催します。
現代アート×書が紡ぐ
ことばのかたち かたちのことば
日本の伝統的な美意識を礎に、書画や工芸作品などの手仕事からAを駆使したインスタレーションまで、シームレスな表現が注目される美術家のミヤケマイ。象形文字としての漢字が持つ物語の根源にむきあい、一文字にこめて書く家の華雪。コロナ禍を経て、これまでの社会や生活のあり方が常に問い直される時代に、この二人の作家の物事の本質にアプローチする姿勢や、日常を丁寧に見

つめて導き出す思考や態度には、はつとさせられるものがあります。今を生きる私たちに響く、多様な「ことば」を贈ることをテーマに、インスタレーションと書が交錯する展覧会を開催します。
その他、劇場が街に開かれる「オープンシアター」(P10)や、オルガン、チェンバロ、オペラのレクチャーコンサート、神奈川フィルの定期演奏会など、話題公演が目白押しです。2021・2022年も、神奈川県民ホールで多彩な芸術と出会い、心に残るひとときをお過ごしください。

第56回神奈川県美術展
神奈川県美術展は、美術文化の発展と新人作家の育成を目的に開催する公募美術展です。年齢、所属、国籍を問わず、全国からどなたでも応募していただくことができます。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、残念ながら中止となりましたが、今年はしっかり感染対策を行って開催する予定です。
4月にホームページをリニューアルし、5月中旬からWEBでの事前受付を開始します。写真部門への応募は、郵送での作品搬入が可能となりますので、ふるってご応募ください。



「シャルリー〜茶色の朝」

©derrière Rideau



アンサンブル・アンテルコンタンポラン

©EIC

始動！神奈川県立音楽堂 2021-2022年ラインナップ

神奈川県立音楽堂

感動を分かち合い、創造に挑み、未来につなぐ

2021年春、神奈川県立音楽堂は、感動を分かち合い、未来を拓く創造力が発揮される場所となるべく、意欲的な企画を始動します。

始動1：音楽堂ヘリテージ・コンサート
本誌前号でご紹介した今春スタートの「音楽堂ヘリテージ・コンサート」シリーズ。音楽史に名を残す音楽家たちの名演と感動の記憶を音楽堂に刻むべく組まれた5公演は、人類の至宝(ヘリテージ)にふさわしいピアニストとアンサンブル——プレトニョフ、オピッツ、アンサンブル・アンテルコンタンポラン(横浜初登場)、プラハ・フィルハーモニア、イ・ムジチ合奏団——です。シリーズを手軽にお楽しみいただくためリーズナブルな三つのセット券年間・ピアノ・アンサンブルをご用意しました。また音楽堂主催の2公演では、24歳以下(U24)の方はS席が半額、高校生以下は無料!で鑑賞(S・A席)いただけます。世界遺産をめぐるツアーのように音楽遺産を旅する1年をお過ごしください。

※感染症拡大の影響で一部公演が中止になり、当初発表より公演数が減っております。(3/4現在。詳細は本シリーズ特設サイトをご覧ください。)

始動2：室内オペラ・プロジェクト
「シャルリー〜茶色の朝」

パロックから現代まで多彩な室内オペ

ラが話題を呼ぶ本プロジェクトは、「シャルリー〜茶色の朝」の日本初演です(原作詳細は本誌前号掲載。声(ソプラノ)と5楽器(ヴァイオリン・チェロ・クラリネット・ピアノ・打楽器)とコンパクトな編成の1幕物の本オペラの作曲は、ブルーノ・ジネ(1960生)。ヘリテージ・コンサートに出演する世界屈指の現代音楽アンサンブル「アンテルコンタンポラン」が本年6月に委嘱新作初演を予定するなどフランスを代表する作曲家の一人です。彼はまた、ナチス政権下で迫害された音楽家たちや、ワイマール共和国時代の音楽を再評価する著作などを発表してきた著述家でもあります。

平凡で静かな市民の日常が全体主義に巻き込まれ自由を剥奪されていく恐怖を綴るパロフの寓話的短編小説に対して作曲家は、ワイマール共和国時代に大流行した「時事オペラ」(クルト・ヴァイル『三文オペラ』)に代表される英雄譚ではない市民の日常を描いたオペラを彷彿とさせるキャバレー・ソングやジャズなど多様な音楽スタイルをちりばめ、器楽奏者たちには言葉を発表させるなど、秀逸なアイデアを駆使して、鮮やかにまたスリリングにドラマを描き出していきます。

オペラの前後には、室内楽コンサート



2019年オープンシアターより

©青柳 聡



メサイア2019年公演より

©青柳 聡



神奈川県立音楽堂 2021-2022年ラインナップ

●音楽堂ヘリテージ・コンサート 最新情報

特設サイト ongakudo-classic.com/

●音楽堂室内オペラ・プロジェクト

ブルーノ・ジネ「シャルリー〜茶色の朝」日本初演

(仏語上演・日本語字幕付)

2021年10月30日(土)・31日(日)

特設サイト www.ongakudo-chamberopera.jp/

●子どもと大人の音楽堂

「子ども編」 2021年7月下旬(予定)

「大人編」 2022年3月19日(土)・20日(日) 他

●シリーズ「新しい視点」

5月以降詳細発表

[2022年4月以降のステージに向け、オーディション、ディスカッション、ワークショップ・ワークインプログレスなどを開催予定]

●第55回 クリスマス音楽会

ヘンデル「メサイア」全曲演奏会

2021年12月12日(日) 14:30



みんなで音楽堂をめいっぱい楽しむ(2019年オープンシアターより)

©青柳 聡

や来日する作曲家を囲むクロストークも配置された立体的な公演(1・24チケット、高校生以下無料あり)を開催。また関連企画として、原作の朗読ワークショップ、美術ワークショップなど、多角的に本作を味わうことができる企画も予定されています。

始動3:「子どもと大人の音楽堂」2企画

「子ども編」は、新シリーズとして、夏休みに子どもたちがめいっぱい音楽と触れ合える企画を進行中! ホールでのコンサートや、モダン建築の傑作と評される音楽堂の建築見学、ワークショップなど、子どもたちが飽きないよう、また大人も楽しめるプログラムを計画中です。「イン

クルーシブ」をテーマに、外国人住民の方でもお楽しみ頂けるような準備も進めています。ご家族はじめ、ママ友・パパ友のご家族同士、シニアの方々など身近な方と一緒に関心を持ってください。

一方、「大人編」は20代〜の大人に向けた実践型エンタテイメント・デイ。終日、ジャンルを超えた複数の企画が、ホールやホワイエのみならず音楽堂を隅々まで使って同時多発的に繰り広げられます。プロデュースは小金沢健人・Kenji Nakamuraが担当し、そのコンセプトは「森としての音楽堂」。いくつもの生物と出来事が重なり合って一つの生態系を作り出すように、演者と観客という通常

の構図から逸脱するようなアイデアのもと、音楽堂そのものをピクニックします。前川國男の建築が大胆に開かれた場へと変容していく貴重な機会を体感してください。

始動4:「新しい視点」プロジェクト

「開かれた場」を目指す音楽堂ではさらに、芸術鑑賞の提供という一方向的な活動ではなく、独創的なアイデアに富んだ音楽企画の公募プロジェクトが進行中。今年1年をかけ、公開審査や試演会などを経て、公募モニターからのヒアリングを重ね、アーティストと音楽堂で共に完成版(2022年春以降開催)に練り上げていきます。公演までの経過は逐次お知らせしますので、創作の現場にお立ち会いください。

継承:音楽堂伝統のクリスマス音楽会

神奈川県の高校生と県民が合唱で参加する「ヘンデル・メサイア全曲演奏会」は、今年で55回を迎えます。半世紀を超える本シリーズはまさに神奈川県の音楽の歴史そのものといえるでしょう。演奏:神奈川フィルハーモニー管弦楽団。長年、本シリーズを主導してきた指揮の小泉ひろしは、今回が最後の出演となります。神奈川県が育んだ特別な演奏会で1年を締めくくってください。

オープンシアター 2021

神奈川県民ホール

FOCUS



外山啓介(ピアノ) 横森由衣(ソプラノ) 宮本益光(旅の案内人・バリトン) 上野正博(指揮)
©Yuji Hori



村松稔之(カウンターテナー) 都築由理江(オルガン) 吉留諒(東京シティ・バレエ団) 佐合萌香(東京シティ・バレエ団)

オーケストラ・オルガン・美術でめぐる世界旅行!

子どもや大人、さまざまな国籍、障がいのある方など、あらゆる人たちに、神奈川県民ホールを身近に親しんでいただくこと、毎年多彩なイベントを開催している「オープンシアター」。舞台芸術や展覧会、ワークショップなどのほか、普段は見ることのできない舞台裏の見学など、まるごと県民ホールをお見せします!

大ホールでは「音楽でめぐる世界の旅 ガラコンサート」と題し、世界のさまざまな国で生まれたオーケストラ、オペラ、バレエの名曲・名場面を、「旅の案内人」宮本益光の楽しいお話を交えてお届けする約1時間のコンサートをお贈りします。



2019年の小ホールオルガン見学 ©lwata Eri



對木裕里

迫力満点のオーケストラの演奏、マイクを使わないオペラ歌手の生の歌声、華麗なバレエで、夢の世界へご案内します。開場中に、数々の名公演の舞台となってきた、大きなステージにあがってみる見学会にもご参加いただけます。

小ホールでは「楽器の女王」バイブオルガンと華やかなカウンターテナーの歌声で、小さなお子さまから楽しめるファミリーコンサートを開催。終演後にはステージ上で、たくさんのお客様のレバーやボタンが並んだオルガンの演奏台を見学できます。複雑な装置で音色をあやつりながら演奏するオルガニストの技を間近に感じてみてください。

ギャラリーでは、モノと空間の関係性をユニークな視点で捉えた作品が魅力の彫刻家・對木裕里の展覧会とワークショップを開催。少しとぼけた雰囲気ながら、ギャラリーの白い空間を一変させてしまうパワーにあふれています。ワークショップでは、茶の湯をテーマに、モノを印象的に見せるしつらえや、置き方によって変わるメッセージなどを体感してみます。

当日は多言語通訳、手話通訳のご案内もいたします。昨年はコロナ禍のため、残念ながら中止となってしまうしましたが、今年はしっかりと感染対策をして皆さまをお待ちしています。

オープンシアター 2021

●音楽でめぐる世界の旅 ガラコンサート

2021年5月30日(日) 14:00(開場13:00) <大ホール>
*休憩なし約60分/開場から開演15分前までステージ見学あり
オフエンバック:オペレッタ「天国と地獄」～序曲
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲第1番～第1楽章
モーツァルト:オペラ「魔笛」～パピ/P/Pの二重唱
ミンクス:バレエ「ドン・キホーテ」～グラン・パド・ドゥ 他
出演:上野正博(指揮) 宮本益光(旅の案内人・バリトン)
横森由衣(ソプラノ) 外山啓介(ピアノ)
佐合萌香(東京シティ・バレエ団) 吉留諒(東京シティ・バレエ団)
神奈川フィルハーモニー管弦楽団

全席指定 一般(高校生以上)2000円 子ども(4歳~中学生)1000円
親子(一般1枚+子ども1枚)2500円 *4歳から入場可

●音楽のおくりもの オルガンとカウンターテナーのハーモニー

2021年5月30日(日) 11:00(開場10:15) <小ホール>
*休憩なし約45分+オルガン見学15分
出演:都築由理江(オルガン) 村松稔之(カウンターテナー)
全席自由 500円(小学生以下無料) *4歳から入場可・要事前申し込み

●對木裕里 手のたびーではいっておいで

2021年5月26日(水)~6月5日(土) 10:00-18:00 会期中無休
<ギャラリー 第1展示室> *0歳から入場可・無料・申込不要
ワークショップ「ようこそニッポン ちょっとおかしなTea Ceremony」
2021年5月30日(日) *事前申込制

KAAT神奈川芸術劇場 2021年度 主なラインアップ

●リーディング公演「ボルノグラフィ」

4月16日(金)～18日(日)〈中スタジオ〉

作:サイモン・ステューヴンス 翻訳:小田島創志 演出:桐山知也

出演:上田桃子 内田淳子 小川ゲン 奥村佳恵 壺山隼太

那須 凜 平原慎太郎 堀部圭亮 (五十音順)

●新ロイヤル大衆舎×KAAT「王将」-三部作-

5月15日(土)～6月6日(日)〈アトリウム特設劇場〉

作:北條秀司 構成:台本+演出:長塚圭史 音楽:山内圭哉

出演:福田転球 大堀こういち 長塚圭史 山内圭哉

(以上新ロイヤル大衆舎)

常盤貴子 江口のりこ 森田涼花 弘中麻紀

櫻井章喜 高木 稟 福本雄樹 荒谷清水 塚本幸男

武谷公雄 森田真和 田中佑弥 忠津勇樹 原田 志

●虹む街 6月〈中スタジオ〉

作・演出:タニノクロウ

出演:安藤玉恵 金子清文 緒方 晋 タニノクロウ 蘭 妖子 他

●未練の幽霊と怪物 -「挫波」^{さば}「敦賀」^{つるが}- 6月〈大スタジオ〉

作・演出:岡田利規 音楽監督・演奏:内橋和久

出演:森山未來 片桐はいり 栗原 類 石橋静河

太田信吾/七尾旅人(謡手)

●イスラエル・ガルバン「春の祭典」

6月18日(金)～20日(日)〈ホール〉

作曲:イーゴリ・ストラヴィンスキー 振付・ダンス:イスラエル・ガルバン

●KAAT キッズ・プログラム2021「ククノチテクテクマナツノボウケン」

7月〈大スタジオ〉

振付:北村明子 舞台美術:大小島真木

出演:柴一平 清家悠圭 岡村 樹 黒須育海 井田亜彩実 永井直也

●湊横濱荒狗挽歌 8～9月〈大スタジオ〉

作:野木萌葱 演出:シライケイタ

●近松心中物語 9月〈ホール〉

作:秋元松代 演出:長塚圭史

●KAAT EXHIBITION 2021 志村信裕 展 | 游動

9月9日(木)～10月8日(金)〈中スタジオ〉

●Dance Dance Dance@YOKOHAMA2021「エリア50代」

9月23日(木・祝)～26日(日)〈大スタジオ〉

出演:小林十市 近藤良平 他

●Dance Dance Dance@YOKOHAMA2021

「Noism Company Niigata×小林十市」

10月16日(土)・17日(日)〈ホール〉

演出・振付:金森 穰 出演:Noism0/Noism1/Noism2 小林十市

●アルトゥロ・ウイの興隆 11月〈ホール〉

作:ペルトルト・プレヒト 翻訳:酒寄進一

演出:白井 晃 音楽・演奏:オーサカ=モノレール 振付:Ruu

出演:草薨 剛 他

●YPAM2021 - 横浜国際舞台芸術ミーティング -

12月〈ホール・大スタジオ・中スタジオ〉

●Le Tambour de soie 綾の鼓 12月〈大スタジオ〉

演出・振付・出演:伊藤郁女 笈田ヨシ

テキスト:ジャン・クラウド・カリエール

原作:三島由紀夫 音楽:矢吹 誠

●KAATカナガワ・ツアー・プロジェクト 第一弾

「冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST～」2022年2月〈中スタジオ〉

原作:吳 承恩『西遊記』

上演台本・演出:長塚圭史 共同演出:大澤 遊 音楽:角銅真実

●ラビット・ホール 2022年2～3月〈大スタジオ〉

作:デヴィッド・リンゼイ=アペアー

上演台本:篠崎絵里子

演出:小山ゆうな

KAAT神奈川芸術劇場
2021年度ラインアップ

KAAT神奈川芸術劇場

劇場の面白さや魅力をお届けするため、
劇場をどんどん「ひらいて」いきます。

4月より新芸術監督に就任する長塚圭史の下、街に呼応した劇場づくりを目指していくKAAT神奈川芸術劇場のラインアップが3月1日に発表されました。劇場でしか味わえないワクワク感を皆さまにお届けするために、今年もKAATは魅力的なラインアップを展開していきます。また、アーティストと共に常に考え続け、豊かな発想を生み出す場を劇場で創造するプロジェクト「カイハツ」もスタートします。ぜひご期待ください！



「王将」2017年上演舞台より

撮影:益永 業



「未練の幽霊と怪物」の上演の幽霊」2020年配信映像より



バレエの小箱

チュチュ

知れば、
知るほど、
好きになる

華やかなバレエの舞台、中でも女性ダンサーの美しさを際立たせるのがチュチュではないでしょうか。チュチュは、薄い布を何枚も重ねて作られているスカート状の衣装。チュチュという言葉は、お尻を意味するフランスの幼児語です。

1832年パリのオペラ座での「ラ・シルフィード」*1初演時に考案され、以後バレエを象徴する衣装となりました。チュチュには大きく分けてロマンティック・チュチュとクラシック・チュチュの2種類があります。

ロマンティック・チュチュは、ロマンティック・バレエ*2で用いられるく

るぶし丈の長いものです。当時、トゥシューズは誕生してすぐで、ポアント(つま先立ち)の技法なども発展途上でした。そんな中、長く柔らかになびくロマンティック・チュチュが女性的で幻想的なムードを表現したのです。代表的な演目は「ラ・シルフィード」や「ジゼル」などです。

19世紀に入ると、ロシアに渡ったロマンティック・バレエはクラシック・バレエ*3へと発展します。より複雑で高度な技術が求められ、女性が何十回ものフェツテ(回転技)を見せるようになります。脚をより自由に動かすことができ、その技をしっかりと見せるこ

とのできる丈の短いチュチュが生まれました。それがクラシック・チュチュです。代表的な演目は「眠れる森の美女」や「白鳥の湖」などです。

本年度の神奈川県民ホールは、「白鳥の湖」を筆頭にさまざまなバレエ公演が目白押しです。ぜひ、ご来場ください。

*1：妖精との恋を幻想的に描いた不朽の名作。この作品からチュチュ、ポアントなど、今のバレエへと続く多くの要素が生まれた。

*2：18世紀後半、理性よりも情緒や創造力を大切にするロマン主義が流行。それに基づき誕生したバレエ様式。妖精などが登場する幻想的なものが多い。

*3：19世紀後半、ロシアで確立されたバレエ様式。物語とは無関係の技巧的なダンスシーンを取り入れた。ダンスと演劇要素が分離されて、現在に続くバレエが完成した。

楽器ミュージアム

シンバル



オーケストラやブラスバンド、ドラムセットで光り輝くシンバル。皿状の円盤は特殊な合金(主に真鍮、青銅、^{オス}錫等)できている、サイズや厚さ、素材の配分割合や製造過程の違いで個性の異なる響きを出します。

その歴史は古代文明の時代にまで遡りますが、現代の「シンバル」の直接の祖先はオスマン帝国の軍楽隊で使われた「zil(ズィル)」。17世紀に、錬金術師のアベディス1世が独自の合金製法で作った大きく華やかな響きの「ズィル」が、現代へとつながっていくのです。彼が創業した「ジルジャン(Zildjian)」は今日でも世界トップのシンバル・メーカーですが、それはアベディスがシンバル製法を

長らく一族相伝としていたことが大きく関わっています。

ところで18世紀の欧州ではトルコ・ブームが起こっていて、作曲家たちはトルコ伝来のシンバルをオーケストラに取り込みました。ベートーヴェンの「第九」(1824)で「人類は皆兄弟」と歌う合唱と鳴り響くシンバルとのフィナーレに当時の人々は熱狂したに違いありません。

とはいえ、シンバルの表現力を最大限に活かしているのはジャズやポップス、ロックのドラムセットでしょう。基本的なドラムセットでは、上下2枚のシンバルを重ねた「ハイハット」、大きな「ライド」、「クラッシュ」の3種のシンバルをスタンドに固定

して主にスティックで叩きます。クラシック音楽でのシンバルはもっぱらアクセントを付ける役割ですが、ドラムセットではポピュラー音楽ならではのビートを刻む役割も担います。ドラマーたちはさらに音色が異なるさまざまなエフェクト・シンバルも追加して独自のサウンドを作り込み、それが彼らの腕の聞かせどころとなっています。

シンバルに限らず楽器は人間の創意の結晶。本コーナーは最終回となりますが、楽器を見に聴きにコンサートにお出かけください。



イラスト:遠藤裕喜奈

クロード・ドビュッシー 「子供の領分」

1862年8月22日、ドビュッシーは陶器店を経営する父とお針子の母の長男としてパリに生まれます。8歳になると叔母の家に預けられるなど、家族の愛情には恵まれない幼少期を過ごしますが、幼い頃から音楽の才能を発揮し、10歳でパリ国立音楽院に入学します。

1881年、19歳のドビュッシーは知人のサロンで、32歳のマリー=ブランシュ・ヴァニエ夫人と知り合います。その後4年間、ヴァニエ夫妻の援助を受けますが、夫人とはパトロンと学生以上の関係となるのでした。1884年、22歳で作曲家の登竜門であったローマ大賞を受賞します。夫人への想いが止まぬドビュッシーは、ローマ留学を最短の2年で切り上げて帰国。しかし、夫人の彼への愛情はすでに冷めてしまっていました。

それからのドビュッシーは何かに取り憑かれたように数多くの女性と恋愛します。ソプラノ歌手、ダンサー、詩人の娘、マヌカン等々。しかも、一緒に暮らす女性がドビュッシーの度重なる浮気に耐えかねてピストル自殺未遂を起こしてしまいます。その1年後には彼女の親友と

結婚。その妻も彼の浮気が原因でピストル自殺未遂を起こすのです。

1903年、41歳のドビュッシーは、同い年のエンマ・バルダック夫人と出会います。彼がピアノを教える生徒の母親でした。翌年、二人は英国に駆け落ち。1905年には、愛娘クロード・エマ、通称シュシュが誕生します。そして1908年、ドビュッシーとエンマは正式に結婚。この年、3歳になったばかりのシュシュに献呈したのがピアノ組曲「子供の領分」です。ピアノを練習する子どもを描いた「グラドゥス・アド・パルナッスム博士」や、「象の子守唄」、「人形のセレナード」など、子どもへの愛情が溢れる名曲集です。

その後亡くなるまでの10年間、ドビュッシーは暖かい家庭に恵まれ過ごすこととなります。ちなみにシュシュの「シュ」はキャベツのこと。フランスでは「私のお気に入り」といった意味です。

クロード・アシル・ドビュッシー Claude Achille Debussy (1862-1918)
フランスの作曲家。西洋音楽の伝統的音階や和声に捉われない独自の作品を生み出した。代表作はピアノ曲「忘れられた映像」、「版画」、「二つの前奏曲集」、管弦楽曲「牧神の午後への前奏曲」、交響詩「海」など。

かながわ
芸能
●
歳時記

第28回

祭りの進行にあわせ奏でられる6種の囃子
五所宮囃子 (足柄上郡中井町/五所八幡宮/4月)



巡航する見事な山車

協力・写真提供：中井町教育委員会生涯学習課

住所：神奈川県足柄上郡中井町遠藤104
交通：JR東海道線「二宮駅」南口からバス(中井町役場入口行き)にて「五所ノ宮」下車
小田急線「秦野駅」南口からバス(中井町役場入口行き)にて終点下車 徒歩12分
日程：2021年4月29日 ※中止または内容の変更となる場合があります。
お問合せ：中井町産業振興課産業振興班 0465-81-1115



五所宮囃子は小田原囃子の系統で、毎年4月29日の五所八幡宮例大祭で演じられます。江戸時代中期に、組立屋台であった山車の頃から奉納囃子として取り入れられたものです。笛1、太鼓1、締太鼓2、鉦1の5人囃子で、山車運行の節目に演奏される「しやぎり」は他の地区に見られない勇壮な囃子です。現在、町の無形民俗文化財に指定されています。

祭りの朝、江戸時代末期の作といわれる精緻な透かし彫りや鮮やかな彩色が施された4基の山車が、各地区から神社の階段下に集合。山車の中で囃子手が、祭りの進行にあわせ、6種の「五所宮囃子」を奏でます。

夜の闇が訪れると、中村川沿いに勢揃いした4基の山車の提灯と松明の灯りに照らされ、五所宮囃子が賑やかに響き渡る中、紅白2基の神輿が中村川に入り、クライマックスを迎えます。

●同時期(5月)開催のその他の祭り
山王原大漁木遣唄(小田原市浜町/山王神社/5月5日)
*新型コロナウイルス対策のため、中止・変更となる場合があります。ご確認の上、お出掛けください。

more! カナガワ

神奈川フィルハーモニー管弦楽団
定期演奏会第367回

2021年4月17日(土)14:00 神奈川県民ホール
指揮：川瀬賢太郎(神奈川フィル常任指揮者)
ブッツ/交響曲第2番「無垢の島」※日本初演
ブルックナー/交響曲第4番「ロマンティック」
S 6000円 A 4500円 B 3000円 (コース・シニア割引あり)
神奈川フィル・チケットサービス 045-226-5107 (火・水曜10:00-13:00)
www.kanaphil.or.jp/ @kanagawaphil @instagram.com/kanagawaphil

神奈川近代文学館

創刊101年記念展「永遠に『新青年』なるもの」

2021年3月20日(土・祝)～5月16日(日)
開館時間：9:30-17:00 (入館は16:30まで) 休館日：月曜日(5/3は開館)
江戸川乱歩、横溝正史、小栗虫太郎、夢野久作、獅子文六、久生十蘭ら多彩な作家を輩出し、日本の大衆文化史上に一時代を築いた伝説の雑誌「新青年」のあゆみと魅力に迫ります。
観覧料：一般700円(65歳以上、20歳未満割引あり/中学生以下無料)
TEL.045-622-6666 www.kanabun.or.jp

神奈川県文化課
共生共創事業

リーディングシネマ「ちいさなちいさな王様」ほか

2021年3月14日(日)～ほか、随時配信(一部配信中)
年齢や障がいなどに関わらず、全ての人が舞台芸術に参加し楽しむことを目的に実施している「共生共創事業」。
主人公「僕」に疑問を投げかけるちいさな王様の物語を、俳優 藤野涼子と分身ロボットOriHimeのパイロット さえがリーディング。リーディングシネマとしてオンライン配信でお届けします。
ほかにも、シニアや障がい者の方が出演するさまざまな動画作品を、感染防止のため、オンラインで配信します。
kyosei-kyoso.jp/events/
料金：無料
KAAT神奈川芸術劇場 共生共創課 045-306-6811 (平日10:00-18:00)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公演日・会期/出演者・内容等が変更となる可能性があります。最新情報はHPをご覧ください。

神奈川芸術プレス・各施設ホームページ リニューアルのお知らせ

1994年の創刊以来、27年目を迎える「神奈川芸術プレス (KANAGAWA ARTS PRESS)」。永らくご愛読いただいておりますが、2021年度より紙面・発行時期ともに大幅にリニューアルさせていただくことになりました。併せて、最新の施設情報・催物情報をお届けしている各施設のホームページも2021年3月末にリニューアルいたします。これからも、芸術文化のさまざまな情報をお届けしてまいります。引き続きよろしくご願ひ申し上げます。

Renewal 1 神奈川芸術プレス

これまでの神奈川芸術プレスでは、神奈川県内で開催されるコンサート・演劇・企画展・お祭り等のさまざまなお知らせ(事前情報)をお届けしてきましたが、今後は、各種催物等の実施後に、その内容をさまざまな視点から振り返りレポートしていきます。紙の冊子ならではの、読み応えのある特集やレビュー記事を掲載してまいります。また内容のリニューアルに伴い、2021年度以降の「神奈川芸術プレス」冊子版の発行回数は、半年ごと、年2回発行予定です。リニューアル後の初回発行は2021年秋以降、2回目は2022年春頃を予定しており、詳細が決まり次第ホームページ等でお知らせしてまいりますので、新「神奈川芸術プレス」にどうぞご期待ください。

※リニューアルの詳細については、新型コロナウイルス感染症の影響等により、上記から更に変更となる場合があります。

Renewal 2 各施設ホームページ

神奈川県民ホール・KAAT神奈川芸術劇場・神奈川県立音楽堂のホームページを大きくリニューアルします。時期ごとの注目情報をピックアップするトップページや、開催される催物が一目でわかる月間カレンダー、そして公演別のニュースコーナーが作られ見やすくなった公演詳細ページなど、今後の催物に関する充実した情報をわかりやすくお届けしてまいります。また全てのページがスマートフォン対応となり、どんな端末からでもご利用いただきやすくなります。リニューアルは2021年3月下旬を予定しておりますので、各施設の新ホームページをどうぞチェックしてみてください。

※各施設ホームページのURLに変更はございません。

公益財団法人神奈川芸術文化財団をご支援いただいている方々

公益財団法人神奈川芸術文化財団では、賛助会員制度を始めとしたさまざまなご支援の仕組みを通じて、広く皆さまからご寄附・お力添えをいただいております。

公益財団法人神奈川芸術文化財団 賛助会員

法人賛助会員 株式会社アクトエンジニアリング/アズビル株式会社/学校法人岩崎学園/株式会社ヴォートル/株式会社エス・シー・アライアンス/株式会社NHKアート/株式会社勝烈庵一般財団法人神奈川県教育福祉振興会/公益財団法人神奈川県結核予防会/株式会社神奈川孔文社/株式会社神奈川保健事業社/神谷コーポレーション株式会社/川本工業株式会社/かをり商事株式会社/株式会社共栄社/株式会社ケイエスピー/株式会社KSP/株式会社合同通信/株式会社シグマコミュニケーションズ/株式会社ジェイコム湘南/神奈川横浜テレビ局株式会社清光社/月島機械株式会社/株式会社テレビ神奈川/東工株式会社/ナイス株式会社/株式会社日建設計/日産自動車株式会社/日成工事株式会社/日生商工株式会社日総ブレイン株式会社/日本発条株式会社/株式会社野毛印刷社/パナソニックSエンジニアリング株式会社/平安堂薬局/株式会社ホテル、ニュージャパン/一般社団法人本牧関連産業振興協会丸茂電機株式会社/三沢電機株式会社/株式会社MEREKOM/森平舞台機構株式会社/ヤマハサウンドシステム株式会社/株式会社有隣堂/株式会社豊商会社/株式会社ユニコーン株式会社横浜アースト/横浜新都心センター株式会社/横浜信用金庫/弁護士法人横浜/パートナー法律事務所/横浜ビルシステム株式会社/株式会社ワイイーシーソリューションズ(匿名:3社)

永年個人賛助会員 川村恒明 個人賛助会員 味田健一/岩間良孝/岡田博子/小川浩/黒瀬博晴/小山明枝/坂詰こと葉/高岡俊之/中澤守正/橋本尚子/藤原靖也/三宅浩二(匿名:2名)

協賛・協力

能舞台協賛 ナイス株式会社

協力 アサヒビール株式会社/神奈川総合設備株式会社/神奈川トヨタ自動車株式会社/株式会社崎陽軒/株式会社野毛印刷社/株式会社富士住建/三菱地所株式会社

(敬称略 2021年2月26日現在)

ご寄附・ご協賛・ご協力のお申込み・お問合せ：本部経営企画課 045-633-3760 www.kanagawa-arts.or.jp/support/



公益財団法人 神奈川芸術文化財団



神奈川県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー、略して「マグカル」の取組を推進しています。

劇場の達人

だれでも楽しめる舞台をめざして

え・ユキナ



*鑑賞サービスの有無、内容は、公演によって異なります。
詳しくは各施設HPをご覧ください。



Kame かながわメンバーズ 登録無料!
KANAGAWA members メルマガ無料配信
チケットの先行予約が可能
登録は WEBで! www.kanagawa-arts.or.jp/kame

神奈川芸術プレスはここにあります。
神奈川県内の主な公共施設の情報コーナー、首都圏の公共
ホール・公立図書館・博物館・書店・銀行等に配架しております。
WEBでも読めます! www.artspress.jp

MAGCUL 神奈川県発、文化発信ポータルサイト
MAGCUL ドット ネット
MAGCUL MAGCUL.NET



完全フル装備の家  **株式会社 富士住建**

新型コロナウイルス感染対策の為ご予約の上ご来場をお願いします。
TEL:0120-43-2210 営業時間:午前9時~午後7時 年中無休

編集後記 本号にて、現スタイル(2016年リニューアル)での「神奈川芸術プレス」が最終回となります。リニューアル後の新「神奈川芸術プレス」にもどうぞご期待ください! (お亀・塚春は心機一転。「神奈川芸術プレス」も本号の後、リニューアル発行の予定です。新たなシーズンがより良い年になりますように。(倉)

Vol.158 (通巻162号) 2021年3月15日発行 TEL:045-663-3711 FAX:045-663-3714 発行:公益財団法人神奈川芸術文化財団 企画・制作:公益財団法人神奈川芸術文化財団 / MOJOWORK【禁無断複製・複写】無料配布